

令和八年度

中学校中期Ⅱ 入学試験問題 国語

注意

- 1 問題はこれから三問あります。
- 2 試験時間は45分で、始めの合図で開始し、終わりの合図で筆記用具をおいてください。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 5 受験番号を問題用紙と解答用紙の決められたところに、算用数字で記入してください。
- 6 字数制限のある解答は、句読点や記号「」・（）なども一字と数えます。
- 7 設問の都合により原文を一部、改めたところがあります。

受験番号

一、次の各問いに答えなさい。

問一 ――線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- (1) 母の表情から本当に怒おこっているのだとスイサツした。
- (2) コクモツは、昔から様々な国で食べられてきた。
- (3) ピアノの発表会では、実力を存分にハツキすることができた。
- (4) この地域はかつて養蚕業がさかんであつたが、今は衰退すいたいしている。
- (5) このまま人口が増え続ければ食糧不足は必至である。

問二 次の空らん^{らん}に当てはまることばを考え、その中で仲間外れになるものを選び、記号とその当てはまることばを例にならつて答えなさい。
なお、ことばはひらがなで答えても良い。

(例) 鶴^{つる}の(ア)声 ・ 悪事(イ)里を走る ・ ぬかに(ウ) ・ (エ)人寄れば文殊^{もんじゆ}の知恵

(答え) ウ・くぎ (ア)一 イ:千 ウ:くぎ エ:三 が当てはまり、ウだけが数字ではない。)

- | | | | | | | |
|-----------------------------|---|-----------------------------|---|----------------|---|-------------|
| (1) (ア) に真珠 ^{しんじゆ} | ・ | (イ) の手も借りたい | ・ | (ウ) の甲より年の功 | ・ | 知らぬが(エ) |
| (2) 花より(ア) | ・ | (イ) の不養生 ^{ふようじやう} | ・ | (ウ) にかすがい | ・ | 雨後の(エ) |
| (3) (ア) も方便 | ・ | 二階から(イ)薬 | ・ | (ウ) は災いのもと | ・ | あげ(エ)を取る |
| (4) 腐 ^く つても(ア) | ・ | まな板の(イ) | ・ | (ウ) も鳴かずばうたれまい | ・ | (エ) の頭も信心から |
| (5) (ア) 羽の矢が立つ | ・ | 朱 ^{しゆ} に交われば(イ)くなる | ・ | (ウ) 菜に塩 | ・ | (エ) とすっぽん |

問三 次の——線部と同じ用法のものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 先生にほめられる。

ア お客様は九時に来られる。

ウ この貝は食べられる。

イ 病気の父のことが案じられる。

エ 肩かたをぶつけられる。

(2) セミの一生ははかない。

ア 走ってはあぶない。

ウ ゆっくり食べているひまはない。

イ ちっともうれしくない。

エ 電車が動かない。

(3) 姉はもう間もなく家に着くらしい。

ア この魚はとてもめずらしい。

ウ 子供らしい元気な声が聞こえる。

イ 明日はまた雪らしい。

エ あたらしい製品の開発を行う。

(4) 台風によって、今にも看板が倒れそう。

ア 会議の内容は録音するそう。

ウ 今年の夏は雨が少ないそう。

イ 外は雪が降り、とても寒そう。

エ 明日、祖母が家に来るそう。

(5) 昨日の雨でぬれた廊下を掃除する。

ア 黒い服を着た男性は私の父です。

ウ 先生から聞いたことがある話だ。

イ 時間内に目的地に着いた。

エ これは君の好物でしたね。

問四 次の空らん当てはまることを字数にしたがって答えなさい。ただし、頭文字は示してある。

- (1) 敏感な話題であるため、(オ○○○○)に包んで話した。
- (2) 健康的な生活には食事と睡眠の(バ○○○)をとることが大切だ。
- (3) 彼はいつも(ピ○○)の外れた意見をするので、周りの失笑を買っている。
- (4) 先輩は引退することになり、私に部長の(バ○○)を渡した。
- (5) 十月になって、ようやく受験勉強の(エ○○○)がかかったようだ。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

起床は毎朝七時半。夏期講習が始まってからは不思議と一人で起きられるようになった。顔を洗い、ダイニングに向かうと、母が食事を用意してくれている。パンやフルーツなんかと一緒に、^①甘いコーヒーを飲むようになった。母は「意識の問題でしょ。*プラーシーボ効果っていうやつ」などと言っているが、絶対に頭が冴える感じがする。

朝食を終えると、塾の準備をする十時までひたすら演習問題を解く。やはり算数と理科を中心に、前夜の勉強時間にやった箇所の基本問題がいくつもプリントされている。

用意してくれているのはもちろん父だ。つまり、父は十和が自室に入ってから父自身が寝るまでの間にこれを用意してくれていることになる。十和が起きると、父はすでに家を出ている。何日目の朝、家で仕事をしていた母に「お父さんってどうやってこのプリントを用意してくれるの?」と尋ねたことがある。前日の二十三時までやっていた単元が、とくに十和の理解が及ばなかったところを中心に、翌朝には何枚かのプリントになっているのだ。

②母は弱々しく肩を上げた。

「お父さんから十和には言うなって言われてるんだけど、あんたが寝たあとに必ずコンビニ行ってるのよ。パソコンで問題を寄せ集めて、そのデ

「タをスマホに入れて、コンビニでプリントアウトしてきて」

「マジで？ 大変すぎない？」

「うん。だからなんか大きいプリンターをネットで注文してたよ。*A3もプリントできて、両面コピーできるんだって。たぶんそれが今日届く」

「そんなのどこに置くの？」

「とりあえず私たちの寝室しんしつに置くとか言ってたけど。私とお父さんのベッドの間に挟み込むはさこんだって息巻いてた」

「えー、なんかそれは」

「受験生の家では常識なんだって。そういう情報ってどこでつかんでくるんだろうね。お父さんってマメだよなぁ」

「いや、マメっていうか……」

「うん？」

「ありがたいよ。すごく」

素直な気持ちが口から漏れたも。でも、そんな父の期待に応えたいという気持ちにはならなかった。いや、父のためという思いを持つまいと言
い聞かせたのだ。自分のための勉強だ。自分が星蘭せいらんに行くためにがんばるだけ。父の協力をありがたいと思うことと、父の期待に応えようとする
ことはべつだと思う。なんていうか、十和にはそう思うことの方がずっと

X

感じられた。

来る日も、来る日も、同じスケジュールをこなしていった。最初のうちは「今日は何時間勉強した」といったことを考えていたけれど、そんな
こともあつという間になくなった。

一週間、二週間……と時間が過ぎていっても、息切れすることも、飽きてしまうということもなかった。

よく映画などを観ていると、③肝心な部分を簡単にすっ飛ばすものだなと思うことがある。たとえば高校の部活を描いた青春映画などで、競技と
の出会いや憧れの先輩との*邂逅、壁にぶつかったときの葛藤や仲間との*軋轢などは丁寧ていねいに描かれるのに、それらを乗り越えて軌道に乗って力を
つけていく過程は、軽快な音楽に乘せたりして一気に時間が進んでいく。

その端折られた部分こそが大変で、大切なのではないだろうかと思っていた。しかし、生まれてはじめてそういった「ゾーン」のような体験を

試みて Y。急速に力をつけていくときは、時間があっという間に過ぎていく。十和もまた毎日をひたすら消化していくような感覚だった。勉強すること以外の物語は極端に少ない。

一日一日が一瞬で溶けていった。時間はいくらあっても足りない。たとえば一日が三十時間あれば、四十時間あればその分知識が身につくのに……。そんなことをふと思ったとき、自分の意識の変化にすっかり笑ってしまったほどだった。

塾が短いお盆休みに突入してからも、家で苦科目と向き合った。当然、今年はどこにも行く予定はない。母と*花奈は二泊で西伊豆に海水浴に出かけたけれど、④うらやましいとも思わなかった。

父もまた今年の旅行を取りやめた。もちろん十和の勉強を見るためだ。父と家で二人という状況ではあったものの、いつかのように拒否感^{きよひかん}は芽生えない。

ちょうどお盆の真っ只中^{ただ}、八月十五日の夜。父は体調が悪そうだった。

それでも額^{あせ}に汗を浮かべ、文句一つ言わずに勉強を教えてくれる姿を見て、十和はボンヤリと思った。

この人は、⑤自分が望まない未来のために力を注いでくれているのだ――。

母の言うところの「可愛くて仕方がない娘^{むすめ}」と離ればなれになるために、一生懸命勉強を教えてくれている。

それってどんな気持ちなのだろう？

生まれてはじめて、父の立場になって物事を考えた。

その視線に気づいた父が「うん？」と邪氣^{じやき}のない笑みを浮かべ、思わずというふうに机の上の冊子に手を伸ばしてきた。

「何これ？」

父が勉強中に話しかけてくるのはめずらしい。十和もふと集中が解け、背もたれによりかかりながら話に乗った。

「なんか*キノツピーが貸してくれた」

「合格体験記？　なんで？　これ、僕^{ぼく}たちも春にもらったじゃん」

「ああ、なんかその関西エリアの人たちのやつだって。星蘭に受かった子の作文もいっぱい載^のってるから参考になるんじゃないかって、キノツピーが取り寄せてくれたみたい。お父さんにも読んでもらえて言ってたよ」

「じゃあ、ちゃんと渡してよ」

そんな不満を口にしながら、父はパラパラと文集をめくっていく。

至誠塾の合格体験記『栄光への道』は、毎年四月に生徒たちに配られ、四年生の春に入塾した十和もすでに三冊の関東版を持っている。志望校はおろか勉強にまったく身の入らない状態であっても、目を通しているのは楽しかったし、^⑥思うことも少なくなかった。

合格した学校を勲章のように列挙する子どもたちはみんな立派なことを綴っている。パターンはざっくりと二つにわかれ、「僕はこんなふうに壁を乗り越えてきた」パターンか、「お父さん、お母さん、先生ありがとう」パターンかのいずれかだ。

本当に、見事にどちらかに分類される。そういうものだと思うけれど、たとえば「僕は最後まで勉強をがんばりませんでした」パターンや、「お父さん、お母さんを憎んでいます」パターンが少しはあってもいい気がする。

「^⑦なんかみんな立派だね。たいしたものだなあ」

父も似たような感想を抱いたらしい。

「なんかお父さんにも書いてほしいって言ってたよ」

「うん？」

「キノッピーが。言われてたの忘れてた」

「いやいや、それはムリだよ」

「お父さんならいまの中学受験の問題点や矛盾点を浮き彫りにして、しっかり提言してくれる気がするって」

「いやいやいやいや。さすがに買いかぶりすぎだつて。僕にはムリって伝えておいて。絶対にムリだから」

父は大げさに手を振ったが、^⑧瞳はまんざらでもなさそうに光っている。その父から冊子を受け取り、十和は小さく息を漏らした。

（早見和真『問題』 以下の文章を読んで、家族の幸せの形を答えなさい）

* プラシーボ効果……成分の入っていない薬の服用または思いこみや意識によって、症状に効果が表れること。

* A3……紙の大きさの規格の一つ。

* 邂逅……偶然の出会いや思いがけないめぐりあい。

* 軋轢……仲が悪くなること。

* 花奈……十和の妹。

* キノッピー……十和が通う至誠塾の塾長のあだ名。

問一——線①「甘いコーヒーを飲むようになった」とありますが、その理由を「」から。」に続く形で、本文中から十字でぬき出して答えなさい。

問二——線②「母は弱々しく肩を上げた」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア こっそりプリントを夜中に作ってあげることで、娘からの信頼を取りもとそうとする夫のやり方に内心不満があったから。
イ 娘に内緒でプリンターを買って驚かせようという夫の思いを知らながら、先にそれを伝えることに気まずさがあったから。
ウ 夫は娘の勉強のサポートを十分なほどしている一方で、母である自分は一切していないことへの肩身の狭さがあったから。
エ 娘に気を使わせないようにと夫から口止めされている、プリントの準備の手間を伝えることに抵抗があったから。

問三 空らん

X

、

Y

に当てはまることばとして最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- X… ア おこがましく イ ほこらしく ウ やるせなく エ 心地よく
Y… ア 腹をくくった イ 腑に落ちた ウ 板についた エ けりをつけた

問四——線③「肝心な部分」とありますが、これを具体的に言いかえたことばを本文中から十五字でぬき出して答えなさい。

問五——線④「うらやましいとも思わなかった」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 家族みんなで旅行に行くのが恥ずかしい年頃に差し掛かっているから。
イ 旅行に行くくらいなら、勉強をする時間が少しでも欲しかったから。
ウ 西伊豆で海水浴という二泊の旅行計画に魅力を感じなかったから。
エ 父親と二人で過ごせることが旅行に行く以上に楽しみだったから。

問六 ――線⑤「自分が望まない未来」とありますが、これは十和が自分たちの住む家を離れて、おばあちゃんの家で暮らすことを指しています。なぜ離れて暮らす必要があるのですか。三十字以内で書きなさい。

問七 ――線⑥「思うこと」とありますが、その内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 合格した人たちのように、自分ももう少しくらい勉強をしないといけない。

イ 勉強に気持ちが入らない自分には、不合格の人の体験記も見てみたい。

ウ 自分が合格したならば、中学受験の問題点を子どもなりに書いてみたい。

エ 毎年同じ冊子をもっているが、いつも新しい気持ちで読むことができる。

問八 ――線⑦「なんかみんな立派だね」とありますが、父のここでの思いとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 早い気もしていたが、四年生から至誠塾に通わせてよかった。 イ 合格体験記の保護者の欄（欄）の文章を書いてみたい。

ウ 書いていることは素晴らしいが、はたしてみんなこうなのか。 エ 自分の娘もこんなに立派なことが書けるのだろうか。

問九 ――線⑧「瞳はまんざらでもなさそうに光っている」とありますが、父のここでの思いとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大人になった今ならば、皆と同じような立派な合格体験記を書ける自信がある。

イ 自分が娘の合格体験記を書くなら、塾長が求めるような提言を書く自信がある。

ウ 体験記を書いたことがないのに、塾長から直々に指名されたことによる焦りがある。

エ もう合格したときのことを考えて、受験をする前にも関わらず泣きそうになっている。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

なぜ私たちは「よそ者」に冷たいのだろうか？

「家」と書いて、「ウチ」と読む場合があります。「ウチの者」と既婚男性きこんが言えば、たいてい妻のことを指します。「ウチ」は同じ屋根の下に暮らす人びと、多くの場合、家庭を指します。

しかし、「ウチ」という表現は、^①必ずしも家庭のみを指すわけではありません。たとえば、「ウチでは」と言った場合、状況次第しだいで自分の所属している学校や会社などの組織を指すことがあります。みなさんも「ウチの学校は」という言い方をしたことがあるかもしれません。

この例に則して考えると「ウチ」は単に物理的な建物の内側という意味ではなく、人間関係のなかに境界線を引いたときにつくられる、その内側を意味していることが分かります。この境界線は固定的なものではなく、話の文脈次第で変化します。

1 「ウチとヨソ」という考え方

この「ウチ」に対応する言葉として「ヨソ」があります。「ヨソ様に迷惑めいわくをかけるな」「ヨソ者は入るな」など、「ヨソ」は「ウチ」の外側にいる人たちすべてを指し、「ヨソ」に分類される人たちは、ウチから明確ぶんりに分離され、異なる道徳が適用されます。

「ウチ」の人たちは、家族を念頭に置いてもらえれば分かるように、^②情緒的な結びつきが強くなり、わがままを言っても許される関係となります。一方、ヨソ者は、このような情緒的結びつきがなく、わがままを言える相手ではありません。ウチとヨソは明確に分離されているので、ヨソ者が「ウチ」の空間に勝手に入ってくると不快な思いをします。

これは家族だけでなく、会社のような組織でもある程度同じで、やはり会社の「ウチ」と「ヨソ」、会社内の部署の「ウチ」と「ヨソ」が明確にあり、

X

が適用される傾向けいこうがあります。

日本社会では、このような「ウチ／ヨソ」の厳格な区別があり、とりわけ「ヨソ」について冷淡れいたんであることが、ときどき批判されます。たとえば、今は地域おこしが盛さかんですが、都会から地方に移住した人たちがしばしば直面するのは、「ヨソ者のくせに偉えらそうに言うな」という地元民からの批判です。

たいていどこでも地元民のなかで何となく共有されてきた慣習——特定の有力者の意見に逆らえないなど——があるわけですが、^②ヨソ者が知

らずに慣習に*抵触する発言をしたり、行動をしたりすると、地元民を怒らせるといったことが起きます。

こういった「ヨソ者」を排除する傾向は、世界中どこでも起こるように見えます。じつさい紛争や戦争が起これば、そこには必ず明確な敵が設定され、特定の人びとを排除する行動がみられます。

しかし、一方で、それでも人間が創り出す「集団」には、多様な特徴があるのも事実です。明確な上下関係のある集団もあれば、比較的平等な集団もあります。また、内部は平等であっても、外部に対してはとても排他的な集団もあるでしょう。

こうした集団の特徴はなぜ生まれるのか。*文化人類学は、この集団の特性を生み出す原理をさまざまな角度から研究してきました。

たとえば、採集や牧畜、農耕といった「生業」に注目しながら、生業ごとに集団の特徴が違うのではないかという仮説が出されたりもしました。しかし、世界中の事例を見ていくと、それほど単純に集団の特性を分けることができないことも分かっています。

一方で、父系や母系といった「親族」に着目して集団の特徴を明らかにする研究もあります。「親族と集団」と聞いて、みなさんは何を思うでしょう。か。そもそも集団の原理を探るときに、^③親族に着目するという発想が、現代社会に生きる私たちには突拍子もないもののように思えてきます。それは、私たちが「親族」からイメージするものは集団原理とはほど遠いものだからでしょう。

(中略)

2 親族が集団をつくる社会

そもそも親族とは、「血縁(生殖)」と「婚姻(結婚)」によって生まれた関係を指します。この関係がなければ人類が減んでしまうわけですから、人類の存続にとつてもっとも基本的な関係です。とはいえ、私たちは家族以外の親族を日常的に意識して生活しているわけではないでしょう。

あなたの親族を思い浮かべてみてください。家族も親族のうちに入りますが、家族以外の親族と会う機会など、年に数回あるかどうかという人が多いでしょう。むしろ、学校や会社のメンバーのほうが頻繁に会いますし、同じ仲間という意識を持ちやすいはずです。

こうした「親族」という言葉を聞いたときに抱く、どこか疎遠な印象は、決して普遍的なものではありません。この世界には、^④親族がひとつの集団をつくり、学校や会社のように、そのメンバーシップを明確に規定している社会があります。

国家がなくても平和に暮らせる人たち

1930年代のイギリスの人類学者たちは、植民地だったアフリカ社会で盛んにフィールドワークをしていました。当時のアフリカにはいくつもの王国——あるいは首長国——がありました。王のいない社会も複数みられました。にもかかわらず、特に争い続けているわけでもなく、それなりに秩序だつて生活している様子を見て、人類学者たちはこの地域の人びとはどうやって秩序を保っているのかという問いに直面しました。というのも、当時の西洋社会では、社会が何の制約もない自然の状態にあるとき、人びとはお互いに争い合うものだと考えられていたからです。「万人の万人に対する闘争」という言葉を聞いたことがある人は多いかもしれません。これは17世紀にトマス・ホッブズという政治思想家が言い出した言葉です。

ホッブズはその主著『リヴァイアサン』のなかで、もし仮に人間の集団に統治者がおらず、法もない状態であれば、人びとは自分の本能のままに争い始めるだろうと想定しました。ホッブズはこれを自然状態といったのですが、この状態を回避するために国家が必要だという論理を展開しています。

ホッブズの説はその後、さまざまな批判にさらされますが、それでも西洋人の一般的なイメージとして、「国家がない」ということは争いが絶えない状態だと考えられていたはずで、20世紀に入ってもこのイメージは覆ることがなく、アフリカといえば「未開社会」であり、文明から取り残された野蛮な人びとがいる土地だと思われていました。

ですから、アフリカの諸社会を調査した人類学者が、王や首長といった国家を統治する者がいない状況で、お互いの自由を脅かさずに平穏に暮らしている人びとを見たとき、^⑤とても驚いたのです。

「出自」によってつくられる集団の発見

このとき、フィールドワークを通して人類学者たちが見いだしたのが、「出自集団」という概念です。「出自」というのは、自分の生まれという意味です。

人間は誰しも自分を産んでくれた——つまり生物学的な意味での——父と母を持ち、父方と母方の両方に血縁関係のある人たちがいます。私たちはそのどちらも「親族」と考えますが、世界中の人たちがそう考えているわけではないのです。

たとえば、父方の血縁関係のみを重視して、同じ始祖を共有する、父方の親族だけで集団をつくる場合、人類学では父系出自集団——あるいは父系制——といえます。父系出自集団には、土地や家畜の相続の権利を男性に限定したり、自分の集団以外から結婚相手を選ばねばならなかったりするというルールがあります。同じ始祖を共有する集団であるため、いわゆる親戚に相当する人たちの数は、私たちが想像するよりずっと多くなります。

ちなみに、女性は結婚すると、地域によって相手方の出自集団のメンバーになる場合もあれば、実父の出自集団のメンバーのままの場合もあります。

母系出自集団——あるいは母系制——の場合には、これが逆転し、母方の親族だけで集団をつくります。母系制の特徴として興味深いのは、子どもから見て母方のオジ——母の男性の兄弟、とりわけ兄——が、子どもの養育に強い影響をおよぼすことが多いことです。母系はなかなかイメージしにくいですが、男性であっても、母方の系譜にある者たちは同じメンバーになります。すなわち、誰を自分と同じ親族とするのかは、人間集団によって異なるのです。

（箕曲在弘『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』）

*情緒的な結びつき……特定の相手との間に築かれる、密接で感情的なつながり。

*抵触……ここでは衝突する、反すること。

*文化人類学……世界の様々な言語、習慣、信念、価値観、社会制度など、人間の行動と文化の相互関係を研究する学問。

*普遍的……すべてのものに当てはまることを指し、時代や場所を超えて、変わらずに当てはまる性質や価値観。

問一 ——線①「必ずしも家庭のみを指すわけではありません」とありますが、その理由を「内側」ということばを用いて、四十五字以内で書きなさい。

問二 空らん

X

 に当てはまることばを本文中から五字でぬき出して答えなさい。

問三 ―線②「ヨソ者」とありますが、この文脈での「ヨソ者」に当てはまるものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 年代が自分たちとは違う者。 イ 自分たちとは異なる地域で暮らしていた者。

ウ 自分たちとは言葉（方言）が違う者。 エ その地域の有力者が誰かわかっていない者。

問四 ―線③「親族に着目するという発想が、…突拍子もないもののように思えてきます」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 家族以外の親族とつながる機会が少ない人が多く、同じひとつの集団という意識を持ちにくいから。

イ 技術が発展した現代では狩猟採集や牧畜、農耕を行うために集団生活をする必要がほとんどないから。

ウ 現代の日本では少子高齢化が進んでおり、親族の数が以前に比べて大きく減少してしまっているから。

エ 諸外国に比べて争いの少なかった日本では、親族で集団をつくる必要性がそもそも無かったから。

問五 ―線④「親族がひとつの集団をつくり、学校や会社のように、そのメンバーシップを明確に規定している社会」とありますが、これを一言で表したことを本文中から四字でぬき出して答えなさい。

問六 ―線⑤「とても驚いた」とありますが、それは当時の西洋社会にどのような考えがあったからですか。四十字以内で書きなさい。

問七 本文中に書かれている内容として正しいものには○を、正しくないものは×を書きなさい。

(1) 家族は情緒的な結びつきが強い関係であるため、わがままを言われても許さなければならない。

(2) 紛争や戦争が起こると、明確な「ヨソ者」を設定して、彼らを排除するような動きが見られる。

(3) 「親族」と聞いたときに感じる疎遠な印象は、世界中のどこでも持たれているわけではない。

(4) 父系制を主とする集団では男性優位の考えがあるため、母よりも母の兄が子の養育に影響を与える。

(試験問題はこれで終わりです)

令和 8 年度

中学校中期Ⅱ入学試験問題

算 数

注 意

- 1 問題は□1から□5まで5問あります。
- 2 試験時間は45分で、始めの合図で開始し、終わりの合図で筆記用具をおいてください。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 5 受験番号を問題用紙と解答用紙の決められたところに記入してください。
- 6 解答は別紙の解答用紙に記入してください。
- 7 計算は問題用紙の余白を使用してください。
- 8 図は必ずしも正確ではありません。
- 9 円周率は3.14として計算してください。
- 10 分数で解答する場合は、指示がない限り、これ以上約分できない形で答えてください。

受験番号	
------	--

① 次の にあてはまる数を答えなさい。

(1) $\frac{3}{4} \div \frac{4}{3} \times 4 =$

(2) $140 \div 0.4 - \left(8 \times 5 + 3 \div \frac{1}{7} \right) =$

(3) $(506 + 507) \times 4620 = 2 \times 3 \times 5 \times 7 \times 11 \times$

(4) $8 \text{ インチ} \times 20 =$ m (1 インチ = 2.54 cm)

(5) $\left(\frac{1}{12} \times 7.2 - 0.35 \right) \div \left(\frac{5}{6} \div 15 + \frac{1}{12} \right) =$

② 次の各問いに答えなさい。

(1) 3つの数 A, B, C があります。A と B の和は 187, A と C の和は 149 です。A は B と C の和と等しくなります。このとき, A, B, C をそれぞれ求めなさい。

(2) 長いすに子どもが座ります。1つの長いすに 7 人座ると, 6 人座る長いすが 1 きゃくでき, 1 人も座らない長いすが 1 きゃくできます。1つの長いすに 5 人座ると 18 人座れません。子どもは何人が求めなさい。

(3) 今年, 父と私の年れいの和は 52 才です。今から 5 年前には, 私の年れいは父の年れいの $\frac{1}{6}$ でした。私の年れいが父の年れいの $\frac{1}{2}$ になるのは, 今から何年後か求めなさい。

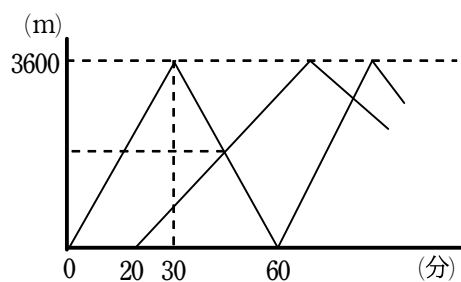
(4) 的に当てると 7 点増え, 外れると 3 点減る射的のゲームがあります。初めに 30 点の得点を持っており, このゲームを 10 回行くと得点は 40 点になりました。このとき, 的に当たった回数は何回か求めなさい。

(5) りんごを 5 個, ももを 4 個買うと 1090 円になります。また, りんごを 4 個, ももを 5 個買うと 1070 円になります。りんご 1 個の値段は何円か求めなさい。

(6) ある仕事をするのに, A は 30 日, B は 45 日, C は 27 日かかります。初めは A と B の 2 人で 8 日間仕事を行い, 次に C が 1 人で何日間か仕事を行いました。残りの仕事を 3 人で 4 日間行くと仕事はすべて終わりました。C が 1 人で仕事を行ったのは何日間か求めなさい。

(試験問題は次のページに続きます)

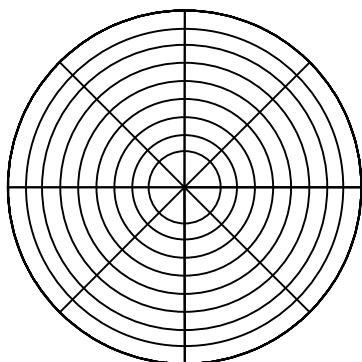
- ③ 家から 3600 m はなれた学校までの道を，はるとさんと兄がそれぞれ一定の速さで往復します。兄が家を出発してから 20 分後にはるとさんが家を出発したところ，学校と家のちょうど真ん中の地点で 2 人ははじめてすれちがいました。右のグラフは，2 人が移動したようすを表したものです。このとき，次の各問いに答えなさい。



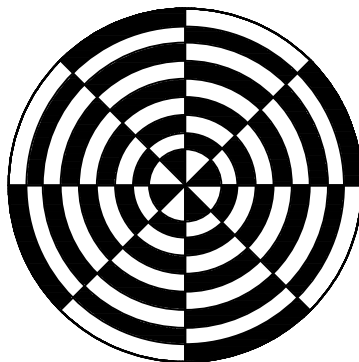
- (1) 兄の速さは分速何 m か求めなさい。
- (2) はるとさんと兄が家を出てからはじめて出会うのは，はるとさんが出発してから何分後か求めなさい。
- (3) はるとさんと兄が同時に家に着くまで移動し続けました。はるとさんは何分間移動したか求めなさい。

(試験問題は次のページに続きます)

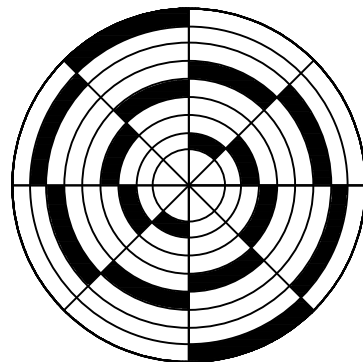
- ④ 下の図のような直径1 m の平らなマンホールに色をつけていきます。マンホールには真ん中に半径10 cm の円がかかれており，そこから同じ中心で半径を5 cm ずつ増やした円がかかれています。さらに，マンホールの外周の円を8等分するように線が引かれています。



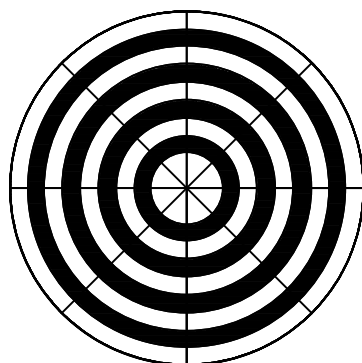
マンホール



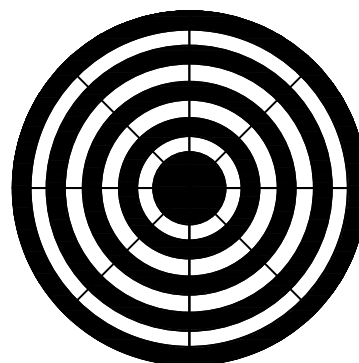
図①



図②



図③

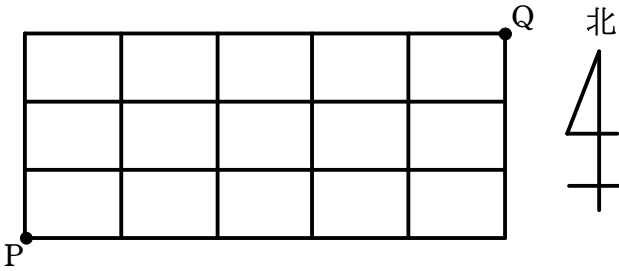


図④

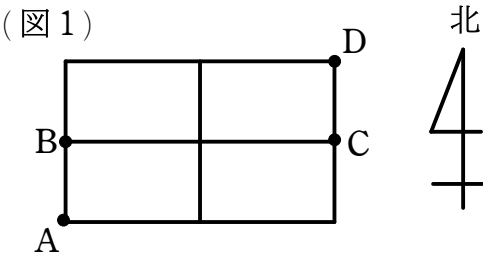
このとき，図①～図④の色がついた部分の面積は，それぞれ何 cm^2 か求めなさい。

(試験問題は次のページに続きます)

5 下のような道のある地域で、点 P から点 Q まで遠回りをしないで行く最短の道順を考えます。このとき、次の各問いに答えなさい。



- (1) すべての道順は何通りあるか求めなさい。
- (2) 点 P から点 Q まで遠回りをしないで行く最短の道順の中で、進む方向が変わることを考えます。
 例えば、図1で点 A から点 B、点 B から点 C、点 C から点 D の順に進んだ場合、進む方向はちょうど2回変わります。



- ① 点 P から点 Q まで遠回りをしないで行く最短の道順の中で、進む方向がちょうど2回変わる道順は何通りあるか求めなさい。
- ② 点 P から点 Q まで遠回りをしないで行く最短の道順の中で、進む方向がちょうど3回変わる道順は何通りあるか求めなさい。

(試験問題はこれで終わりです)

(計 算 用 紙)

(計 算 用 紙)

(計 算 用 紙)